南朝の都「住吉」

コース4

油のまち遠里小野

遠里小野は日本で最初に油がつくられた地と伝えられています。菜種油の製法を確立し、近畿地方でも有数の油産地になりました。「油茶屋」という地名も残り、かつて油の取引が行われていたことが伝えられています。

主なルート（見学ポイント）

1 住吉東駅
2 荘厳浄土寺
3 浄光寺（油かけ地蔵）
4 車返しの桜
5 地蔵寺（五大力）
6 住吉行宮跡
7 大圓寺
8 若松神社
9 極楽寺
10 安養寺
11 西方寺
12 我孫子前駅

遠里小野（おりおの）

万葉集にもその名が詠まれるなど、古代から遠里小野の地名はあり瓜生野から転じたとの説もある。室町期にはエゴマ油の製造・販売をしていたが、遠里小野周辺で菜種生産が増大した江戸期には菜種作と製油業の中心地となった。住吉大社の600余基の石灯篭にも油を供給していた。

⑥住吉行宮跡（すみよしあんぐうあと）

墨江2丁目

津守氏歴代の居館。一角に住吉大神の正印（印鑑）を祀る正印殿があった。南北朝時代には、南朝の後村上天皇がこの地を行宮（あんぐう）とされて、崩御されるまで8年間滞在された。また、慶長19（1614）年、大阪冬の陣では徳川家康の本陣となった。

⑧若松神社

沢之町1丁目

社名は止止呂支比売命神社（とどろきひめのみこと）、祭神は素盞嗚尊（すさのお）・稲田姫尊。創建年代は不明だが神功皇后の創設ともいわれる。若松神社の愛称は承久3（1221）年、後鳥羽上皇行幸の際、作られた行宮を若松御所と名付けたことから来る。明治5（1872）年、住吉大社から分離し村社となる。

⑨極楽寺

遠里小野5丁目

榎津（えなつ）寺の極楽院がこの寺の前身とされているが、創建は不明。本尊の毘沙門天（大阪市指定有形文化財）は、信貴山の毘沙門天と同じ材といわれる。楠正成の両親が本尊に子宝を祈願し、正成が誕生した。その御礼に正成が寄進したとされる。石灯篭や、正成お手植えといわれる楠もある。